

新しい



抗結核薬の開発のための

薬剤標的の探索



—感染防御免疫との関連から

抗結核薬のドラッグデザインに当っては、結核菌の病原因子、例えば結核菌が感染した宿主マクロファージの細胞内シグナル伝達系にクロストークして宿主細胞の代謝系を攪乱するような機能を持つSer/Thr蛋白キナーゼのようなシグナル伝達蛋白に照準を当て、そうしたもののの中に新しいタイプの薬剤標的を設定して行くことも合理的な戦略の一つと言えます。

今回は、現在までの新規抗結核薬の開発状況、新しいタイプの抗酸菌症治療薬の開発に資するような薬剤標的の探索研究、さらには、結核をはじめとする抗酸菌症の免疫補助療法の現状と将来展望について考察します。

講師 **富岡 治明** 島根大学医学部名誉教授
(医学部微生物・免疫学教室)

日時 平成25年12月3日(火)
15:00~16:30

参加無料
定員60名

場所 出雲市民会館 3階302研修室

(出雲市塩冶有原町2丁目15 TEL:0853-24-1212)

【申込み・問合せ先】

島根大学サイエンスカフェ世話人 板村 裕之(生物資源科学部教授)

島根大学研究協力課 山砥

TEL:0852-32-9727 FAX:0852-32-6488 E-mail:rsd-kenkyu@office.shimane-u.ac.jp

★お申込みの際は、氏名・住所・電話番号をお知らせください。

★参加者申し込み多数の場合は、ご参加いただけない場合もありますが、その場合にはご連絡差し上げます。